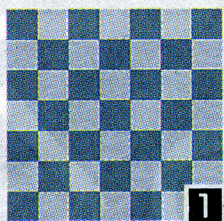


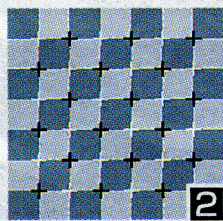
目
の
冒
険

錯視の話⑤

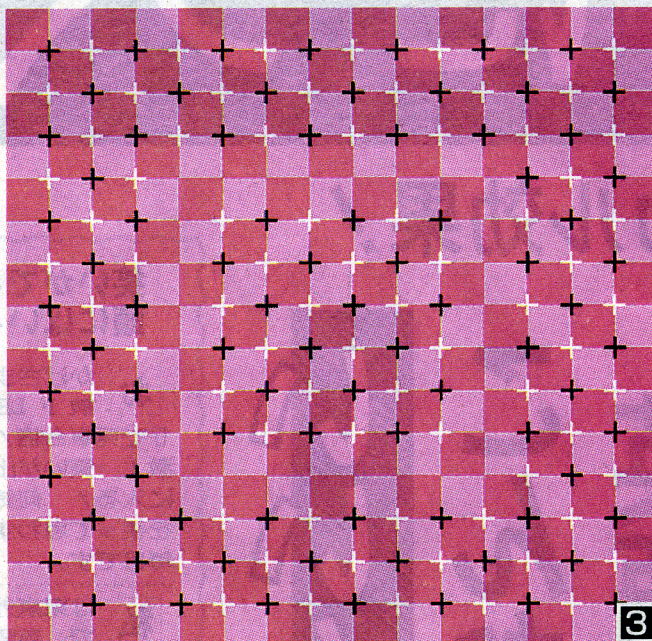
北岡 明佳



1



2



3

学校の夏休みの宿題に「錯視図形を作ってきなさい」と言われることはまずないと思うが、そういう場合の対策も準備してあれば安心だ。

自力で、新しい錯視を発見するというのは大変なので、本などで錯視についての知識を得るのがよ

自分で作って「傾く」「動く」

赤、薄
い灰色の
代わりに

い。ところが、なかなか良書が手に入らないのである。

そこでインスタント講座をここに開講しよう。

まず、濃い灰色と薄い灰色の市松模様を描こう

(1)。パソコンを使うなら、ワープロソフトに付属している図形描画ツ

ールを使えば十分だ。

正方形の角の部分に黒い線と白い線を交互に置いてみよう。こうすると、

黒い線は濃い灰色の正方形と接する方向に傾いて見え、白い線は薄い灰色

の正方形と接する方向に傾いて見える。この錯視

を縞模様コードの錯視という。(2)では十字形に線

を乗せているので、十字の縦棒は時計回りに、横

棒は反時計回りに、十字形がゆがんで見える。

実は、(2)の中に静止画

が動いているのだが、気づかされたらどうか。(3)のよ

うに、内側と外側で十字

形の置く場所を変えてやると、わかりやすくなる。こうすると、内側の

正方形領域(少しひし形に見える)が動いて見える。

濃い灰色の代わりに濃い色を(この場合は

薄い色(この場合はピンク)を着色しても、モノ

クロの場合と同じであるから、色は付けよう。

最後にタイトルを付けて完成である。うーん、

色の感じは梅干しである。よし、「梅干しの話

め合わせ」にしよう。(立命館大助教授)